

## 自主創造の基礎 2

### 卒業生のお話を聞く 講師招聘について

これまでの講師（クラス担任の研究室で選定基準に該当する卒業生を選定）

表 1 これまでの講師（クラス担任の研究室で選定基準に該当する卒業生を選定）

	氏名	勤務先	卒業年度（修了年度）	卒業研究室	タイトル	クラス担任（ファシリテーター）
2016 年度 （関連企業）	H.K.	三菱スペース・ソフトウェア株式会社	2009 年度卒業 （2011 年度修了）	中山研	「独創性とは何か」	中山先生
2017 年度 （教員）	A.S.	日本大学第三高等学校教諭	2012 年度卒業 （2014 年度首都大学大学院修了）	竹村研	「〇足のわらじを履く教員の出張授業～人生のサンプルたち～」	村瀬先生
2018 年度 （関連企業）	K.K.	国際航業株式会社	2009 年度卒業 （2011 年度修了）	加藤研	「防災関係の技術者としての生き方」～自然災害で人が死なない社会を作りたい～	加藤先生
2019 年度 （関連企業）	Y.T.	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング東北支社	2013 年度卒業	竹内研	「社会人としての基礎力～新しい時代を生きていくために今からやるべきこと」	竹内先生

## 2018～2013

### 2 講師選定基準

#### ① 招聘人数

1 学科当たり、1 名とする。1 8 学科合わせて 1 8 名とする。

#### ② 経験等

卒業後 3 年目から 7 年目程度とする。仕事にも慣れ、仕事内容も語れる世代であり学生生活や就職活動の話もできる。3 年未満だとまだ社会人として経験不足の面もあり、30 歳以上だと、世代ギャップが生まれてしまう。

#### ③ 職種

文理学部に在籍する 1 年生が講師を選択して聴講する形式であるため、文理学部生の多くが将来選択する民間企業（営業職、事務職、システムエンジニア、研究職等）、教員、公務員等の一般的な仕事に就く者が望ましい。

### 6 授業の運営方法（ガイドライン）

① 講師には依頼の時点で、質問事項を送付しておき、当日の授業の運営についてファシリテーターと詰めておく。

2

② 自主創造の基礎 2 担当教員又は講師をよく知る教員がファシリテーターとなり、講師の学生生活、就職活動、仕事内容について話を深く聴いていく。

③ 主な質問項目（「自主創造」というテーマを念頭において回答を引き出す）

○ 学生時代について

- ・ 日本大学文理学部を選択した理由、学科を選択した理由
- ・ 自身の学科での勉強方法について
- ・ 印象に残った授業、教員、出会い
- ・ 課外活動（サークル、アルバイト、ボランティア等）
- ・ 学生時代に力を注いだこと（目標を持って努力し、結果を出したこと）
- ・ 困難だったことをどのように乗り越えたか

○就職活動について

- ・どのように志望する業界，企業，職種などを決めたのか
- ・就職活動の準備で必要なこと，仕事研究のためにやるべきこと
- ・どのようにすれば面接官に思いを伝えられるのか

○仕事について

- ・仕事の目的と1日，1年のスケジュール
- ・どのような人と関わるのか
- ・取引先とどのように信頼関係を築くのか
- ・営業トークの仕方や資料準備について
- ・仕事ができる人はどのような人か，尊敬する人物
- ・日頃努力していること
- ・仕事が大変だと感じる時はどんな時か
- ・困難だったことをどのように乗り越えたか等

○その他

- ④当日会場において授業を聴いた後に出席票兼リアクションペーパーを提出。  
提出物についての評価方法は各学科の授業担当教員に委ねる。
- ⑤リアクションペーパーは，A5用紙に学科名・学籍番号・氏名の他，「ゲストティーチャーの話を聴いた感想」「話を聴いた上で，自分の学生生活をどのように充実させて行きたいか」等を項目とする。
- ⑥授業を撮影する場合は当該講師の許可を得た上で撮影する。
- ⑦授業の撮影に際しては，コンピュータセンターとの連携が必要である。

9 講師料

講師料は10,000円（税込）とする。\*

\* 交通費込み